

新庄市立明倫中学校区

「児童生徒間交流」

～小体連陸上記録会壮行式における中学校応援団からの激励～

■ はじめに

新庄市立明倫中学校には、隣接する新庄市立沼田小学校、約2km離れたところに位置する新庄市立北辰小学校の2校から進学してくる。平成23年度には、小中一貫教育シンポジウムの発表校區としてこれまでの取組を発表し、現在も継続発展させている。こうした取組を推進していくための組織として、明倫中学校区小中連絡協議会を開催し、平成24年度は次のことをねらいに取り組んでいる。

9年間を見据えた小中一貫教育を念頭に、明倫学区の全教職員が相互の理解と交流を進め、子どもたちの課題解決に向けて各教育領域における一貫指導の在り方についての研修・研究・実践を深めることで基本目標の達成をめざす。

また、その運営は、「研修・研究部門」「交流部門」「適応部門」に分かれて組織されている。その中で「交流部門」は、児童生徒間交流と教職員間交流を推進する役割を担っている。

■ 小体連陸上記録会壮行式で激励の応援をする中学校応援団を追って

平成24年度は、6月7日（木）に沼田小、8日（金）に北辰小に出向いて、明倫中3年生の応援団員が小体連陸上記録会壮行式で激励の応援を行った。



小学校での壮行式は、朝の全校朝会の時間で行われます。

中学3年生の応援団員は、始業前に準備して出かけます。沼田小へは徒歩で、北辰小学校へは自転車で向かいます。

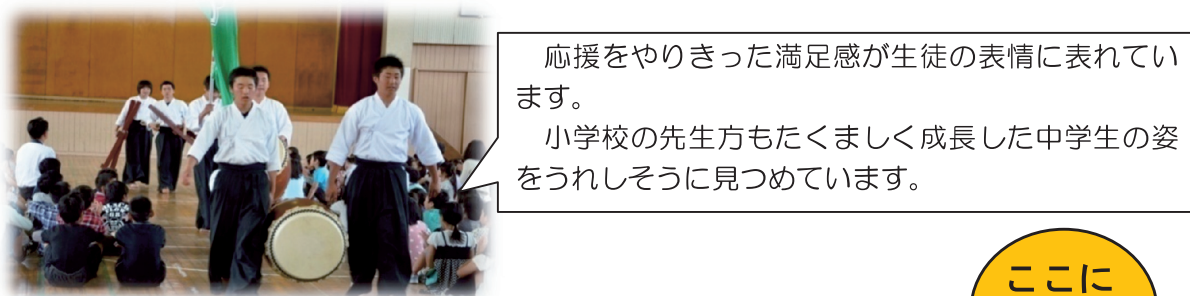
壮行式を終えて、応援団の生徒たちが明倫中に戻ってくるのは、1時間目が始まる前です。

陸上記録会に出場する小学6年生の前に、中学生の応援団が入場します。堂々とした姿です。

明倫中学校には伝統の応援があり、今年度の応援団長は、小学校で見た中学生の応援に憧れて、応援団長に立候補したそうです。



中学生の応援団のみなさんが、小学生による応援を見守ります。中学生の姿勢を崩さない姿に、応援団として、そして、先輩としての役割と責任を感じます。



ここに
注目！

■ 取組を行って

- 小学生は、中学生の姿に憧れを感じている。
- 中学生は、応援団としての自覚、先輩としての自覚をもって応援をやりきったことで、自信を高めている。
- 中学生として小学生の前に立つことで、自分の姿を客観的にとらえ、まわりに気を配りながら行動する姿がある。

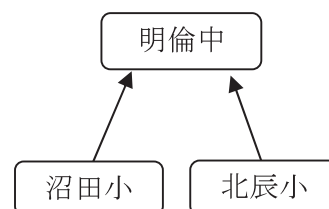
■ まとめ

小中学校ともに1時間目の授業が始まる時間前に活動を終わることができるように教育課程を工夫していた。「授業の時間を犠牲にしてまでの連携の活動は長続きしない」という視点は、これまで小中連携の取組を継続してきたからこそその言葉であった。また、小学校の先生方が、中学生の成長した姿を肌で感じることができ、小中学校のつながりの中で成長を見通すことができるのも児童生徒間交流の意義の1つであると感じた。

□ 学校基礎データ（平成24年度）

学校名	児童生徒数（学級数）
新庄市立明倫中学校	295名（13学級）
新庄市立沼田小学校	403名（17学級）
新庄市立北辰小学校	131名（8学級）

<単一複連携>



河北町立河北中学校区

「河北中NAV I」

～生徒・保護者・教職員の信頼関係を築くガイドブック～

■ はじめに

河北町立河北中学校は、町に1校の中学校であり、町内の全小学校6校（西里小、溝延小、谷地中部小、谷地南部小、谷地西部小、北谷地小）から進学してくる。

平成20年に、創立30周年の事業の一環として「河北中NAV I」が創刊された。愛知県名古屋市長城山中学校の「城山中学校NAV I」の実践を視察し、河北中学校でも生徒・保護者・教職員が共通理解を図れる冊子を作りたいという願いのもと作成に取りかかった。その後、毎年更新され、平成24年度で第5号の発行となる。

■ 編集委員会の構成

以下のメンバーからなる編集委員会により作成されている。

編集委員会役職名	職名・校務分掌等
編集事務局長	事務総括
編集委員	教務主任、教育相談担当、生徒指導主事、養護教諭
監修	校長、教頭



「河北中NAV I」は、「城山中学校NAV I」が事務職員を中心に編集されたことに倣って作成されている。そのため、編集の中心となる編集事務局長を事務総括が務めている。学校集金等、事務室からの情報発信もあり、学校運営に積極的にかかわれるメリットが大きいということである。

ここに注目！

- 事務総括が編集事務局長を務め、事務室からの積極的な情報発信がなされている。

■ 掲載内容と活用の仕方

「河北中NAV I」は、河北中の生徒・保護者・教職員の共通理解のためのガイドブックであり、3年間の中学校生活を道案内（ナビゲート）するものとして発行されている。

例年12月初めに行われる「新入生オリエンテーション」において配付され、進学前に児童と保護者が中学校生活について理解を深めるのに役立てている。さらに、オリエンテーション資料としての位置付けだけではなく、中学校生活の基本的なことを確認できるものとして、卒業までの3年間使用する冊子となっている。

保護者が、学校に相談や問い合わせ、連絡等があるときには、学校と保護者が互いに「河北中NAV I」を見ながら話をすることで、共通理解を深めることができる。

ここに注目！

- 中学校進学時だけでなく、卒業までの3年間使用する冊子である。
- 保護者と学校とが互いにこの冊子を見ながら話をすることで、共通理解を深めることができる。

ここに 注目！

○ 冊子の始めに「メニュー紹介」として、内容ごとに分類して記載ページが示され、知りたい情報が探しやすくなっている。

メニュー紹介

() の数字はページ

連絡したいときは

欠席の連絡(裏表紙)
転校するときは(21, 22)

河北中学校のこと

校歌・校章(1~5)
河北中の教育(6)
通学路(15~17)
学校平面図(7, 8)
毎日の学習(10, 11)
日課表(9)
服装と持ち物(13, 14)
学校からのお知らせ(20)

相談したい時は

相談したい時は(47, 48)
スクールカウンセリング(50, 51)
教育相談(49)
学校以外の相談窓口(45, 46)

必要な費用のこと

学校集金(56, 57, 59)
就学援助(59)
給食(39, 40)

学校行事・教育活動

学校行事(73)
総合的な学習(11)
学校図書館(35)
生徒会(22~32)
部活動(33, 34)

健康のこと

健康に過ごすために(19)
保健室から(41~43)
ケガしたら(44)
特別な状況での欠席(45, 46)

いろいろな手続きは

就学援助(59)
学割乗車券の申込み(60, 77)
日本スポーツ振興センター(44)
PTA安全互助会(44)
転出入(転校)の手続き(21, 22)
集金口座振替依頼書(58, 78)
給食(39, 40)

学習のこと

毎日の学習(10, 11)
日課表(9)

安全のこと

安全に過ごすために(18)

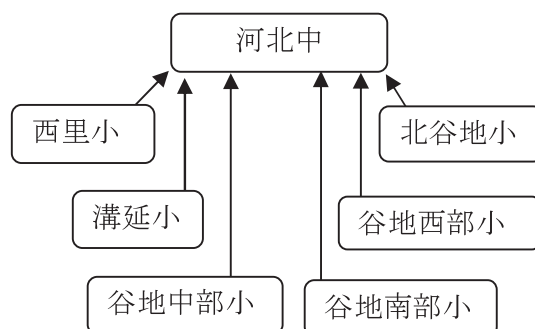
■ まとめ

取材を通して、児童生徒や保護者にとっての、中学校進学前の不安や進学後の戸惑いを解消するためにも「河北中NAV I」の意義は大きいと感じた。今後は、生徒や保護者にも編集にかかわってもらおう方針だということで、さらなる内容の充実が期待される。

□ 学校基礎データ(平成24年度)

学校名	児童生徒数(学級数)
河北町立河北中学校	526名(18学級)
河北町立西里小学校	94名(7学級)
河北町立溝延小学校	129名(7学級)
河北町立谷地中部小学校	425名(17学級)
河北町立谷地南部小学校	236名(10学級)
河北町立谷地西部小学校	50名(6学級)
河北町立北谷地小学校	89名(7学級)

<単一複連携>



新庄市立日新中学校区

「生活リズム調査と合同リーダー研修会」

■ はじめに

新庄市立日新中学校区は、市内で最も児童生徒数が多い学区となっている。日新小学校が徒歩5分のところに隣接し、また、比較的大規模学区で市街地にあるにもかかわらず、日新小学校1校からのみ中学校へ進学してくるために、地理的な条件や連携の規模など充実した環境のもと小中連携の取組が進められている。また日新学区教育振興会という地域の学校教育への後援会組織の支援が土台にあり、地域と小中学校が密接にかかわりをもっている学区でもある。

小中学校共通で小中一貫教育の研究テーマを掲げ、年3回の合同研修会を行い、3部会（「いのち」「まなび」「かかわり」）に分かれて様々な取組を行っている。また3分野（教員の交流、児童生徒の交流、PTAの交流）も視点に入れて連携に取り組んでいる。

■ 生活リズム調査

小中学校同一歩調で家庭・地域をあげて望ましい生活リズムを児童生徒に育成することを目的に、小中学校同じ項目で生活リズム調査を行っている。その結果を小中学校で共有し指導に生かしている。

また、結果は町内座談会の議題としても活用し、家庭を巻き込んでの取組となっている。小学校で9のつく日（9、19、29日）に「さわやかグッデイ」と称してノーテレビ、ノーゲーム運動を実施し、それに合わせた調査を行っている。

平成24年度 「生活リズムチャレンジカード」

日新小・中学校連携
した取り組みです。

はや 早い
「早寝・早起き・朝ごはん、テレビ・ゲームの約束(運動)」

★早寝早起きをしましょう。

朝起きる時間： 時 分
ねる時間（ふとんにはいる）： 時 分 分 曜日 日 時 分

★朝ごはんを毎日しっかり食べましょう。

★テレビ・ゲームのやくそく（テレビは、 ）
《記入例は裏面を参考にしてください。》《ゲームは、 》

起床・就寝・テレビ・ゲーム：（ぬめて通ってきた：○、ぬめて通てできなかった：×）

日	早寝早起き		朝ごはん （食へにもにのをつける）	テレビ・ゲーム		おうちの人のサイン	担任印
	昨日ねた時刻 （布団に入った）	今日おきた時刻		テレビ	ゲーム		
8月27（月）			ごはん（パン）（ ） おかず（ ） みそ汁（スープ）（ ）				
8月28（火）			ごはん（パン）（ ） おかず（ ） みそ汁（スープ）（ ）				
8月29（水）			ごはん（パン）（ ） おかず（ ） みそ汁（スープ）（ ）				
8月30（木）			ごはん（パン）（ ） おかず（ ） みそ汁（スープ）（ ）				
8月31（金）			ごはん（パン）（ ） おかず（ ） みそ汁（スープ）（ ）				
9月1日（土）			ごはん（パン）（ ） おかず（ ） みそ汁（スープ）（ ）				
9月2（日）			ごはん（パン）（ ） おかず（ ） みそ汁（スープ）（ ）				

ばく・わたしの感想（一週間をとおしてどうでしたか？
～これからどんなことに気を付けて生活しますか？～）

おうちの人から～お子さんの生活はいかがでしたか～

【取組を行っての児童生徒の変容】

- 「早寝・早起き」についてはだいぶ浸透してきており、早めに就寝しようとする傾向が見られる。
- 「朝食」についても、食べる習慣が身に付いてきている。早起きすることで朝の生活に時間的な余裕が出てきて、食事を摂る時間が増えていることが要因として考えられる。

■ 取組を行って

- 小学校のうちから取り組んでいるため、中学校に進学した後も指導が浸透しやすい。
- 小中一貫教育全体研修会の際に小中両校の傾向について検証し対応策を検討することで、共通の指導ができ、改善されやすい。
- 保護者に小中両校の資料を配布することで、取組への協力を得やすいものとなっている。家庭によって取組への意識に差が見られるので広報活動を工夫し、広く取組を浸透させていく必要がある。

■ 小中合同リーダー研修会

春休みに小学校の児童会役員と中学校の生徒会役員が合同でリーダー研修会を行っている。子どもたちに主体性をもたせるために、共通のスローガンを決めたり、その年度に同一步調で行う取組を考えたりする。(ペットボトルキャップ集め、壮行式激励、あいさつ運動等)



■ 取組を行って

児童会・生徒会の新役員が小中学校合同の活動を計画・立案することを通してリーダーとしての自覚が高まり、計画に沿って実践することで、小中学校合同で行う良さを実感している。特に小学6年生との交流を積極的に行うことが、中学校入学への不安を和らげ、中学校生活への期待感を高めている。また、生徒指導上の問題の減少にもつながっている。

ここに注目！

～日新中学校の教頭先生へのインタビューから～

- 小中連携にはとにかく多忙感が付きまとうこともあるが、児童生徒間交流は、生徒の成長の姿がよく見られるので、教員の達成感が多忙感を上回っている。
- 児童会・生徒会役員の意識と他の一般生徒との意識にまだ差があるので、今後は、活動の意義や良さを広げていく工夫が必要になっている。
- 小中連携全体については、それぞれの活動を効率的に改善し、日常的に継続できるようにしていきたい。

■ まとめ

取材を通して、小中学校同一步調で行う生活リズム調査はまさに9年間での「そだち」を支える土台となっていると感じた。児童生徒間交流である「合同リーダー研修会」は児童生徒の主体的な活動として成り立っている。特に小学生にとっては、中学校への接続をスムーズにする活動になっている。

□ 学校基礎データ (平成24年度)

学校名	児童生徒数 (学級数)
新庄市立日新中学校	404名 (14学級)
新庄市立日新小学校	732名 (28学級)

<単一単連携>

